

様式 4

令和 7 年度第 1 回 富士見市産業振興審議会 議事録						
日 時	令和 7 年 6 月 2 4 日（火）		開会 午後 1 時 3 0 分 閉会 午後 3 時 4 5 分			
場 所	富士見市立市民総合体育館 多目的室 1 ・ 2					
出 席 者	委 員	猪瀬会長	西本副会長	門脇委員	大曾根委員	平岡委員
		○	○	○	○	欠
		秋元委員	浅見委員	寺沢委員	飯塚委員	高野委員
		○	○	○	○	○
		岡固委員	太田委員	柳委員	小栗委員	世羅委員
		○	○	○	○	○
	事 務 局	経済環境部 本多部長 産業経済課 齊藤課長、長根副課長、鶴田主査、柳川主任				
	委託業者	株式会社ぶぎん地域経済研究所 2 名				
公 開 ・ 非 公 開	公開（傍聴者なし）					
議 題	（１）（仮称）富士見市第 4 次商業活性化ビジョンについて （２）第 3 次商業活性化ビジョンの振り返り （３）商業等実態調査について （４）その他					
議 事 内 容						
	1 開 会 （齊藤課長） 2 市長あいさつ （星野市長） 3 会長・副会長選出 ・ 条例第 5 条の規定に基づき委員の互選により会長・副会長を選出 会長：猪瀬 典夫 委員 副会長：西本 則子 委員 4 会長あいさつ （猪瀬会長）					

5 諮 問

- ・市長から会長へ諮問書の交付

6 議 題

(1) (仮称) 富士見市第4次商業活性化ビジョンについて

※質疑・意見なし

(2) 第3次商業活性化ビジョンの振り返り

【質疑等】

会長：次期ビジョンでは、目標値の設定や達成度の確認も必要である。

委員：計画名称の変更について検討されているが、考え方や方向性が変わってしまうのではないか。

担当：これまで小売業・卸売業だけではなく、飲食・サービス・娯楽業なども含め「商業」という表現としてきた。名称の変更案として、「産業」という表記も検討したが、「産業」は農業も大きな柱になり、既に「農業振興地域整備計画」があるため、計画としては重複する。大都市近郊のまちとして発展した本市では、商業を中心として他の産業との連携を図り、活性化を目指すため「都市産業活性化ビジョン」という名称と整理したいと考えている。

会長：都市的な土地利用している地域での商売や、消費機会をどのように創出していくかという計画が必要であることを考えると、「都市産業活性化ビジョン」という名称を検討したい。

(3) 商業等実態調査について

【質疑等】

会長：課題解決型のビジョンから、新たに魅力向上型の方向性を作っていく必要があると考える。

委員：活性化の具体策を考え、PR方法等、具体的に議論すべきである。

会長：今後、具体的なお意見・アイデアをいただき、次期計画へまとめていく。

委員：商業等実態調査の結果について、消費者の中にはそもそも商店会があるということを知らないという回答があり、対応の必要性を感じた。

会長：「商店会に期待する取組」の設問において、事業者・市民（消費者）の回答比較から一定のギャップが見受けられる。事業者は個々の商売についての要望的な回答よりも「地域作りをどうするのか」という視点が見られる。一方で、市民（消費者）の回答は買い物するときの不便さ・要望など、個別の消費行動そのものについて選択肢を選ぶ傾向がある。

委員：商業当事者として感じることは、消費者は、店に行ってみるのではなく、電話やメールで商品があるか、いくらか確認してから、消費行動に移すことが多くなっている。以前は、街を歩き、探すことが楽しかったが、今はそういう購買の仕方が少なく、コロナ禍以降、変化したと感じる。消費者はオンラインと比較するので、現物を扱う個店の取扱量が少ないと感じている。個店とメーカーとの取引も、以前のように営業が店に来るのではなく、インターネットで発注、オンライン決済という形がコロナ禍以降、定着した。

委員：子育て世代の方々とその子ども達に、地域の商売になじんでもらわないと未来はないのではないかと考える。

会長：調査結果では、全体の買い物行動では高齢者が近くで買い物をするという回答が高いが、項目を「生鮮食料品」単独で見ると若い世代が近くで買い物をしているという結果となっており、若い世代が「手近さ」を求めているのではないか。富士見市の人口動態なども含めて、細かく分析をする必要があると考える。今後、各委員の意見をふまえ、「都市産業活性化ビジョン」としてまとめた。

（４）その他

- ・第２回（次回）審議会の開催日程の報告
令和７年７月３０日（水）

7 閉 会 （西本副会長）